

# 令和 6 年度 北海道開発局事業概要について

共に北海道の未来を創る  
**第9期北海道総合開発計画**



北海道開発局ホームページへはこちらから。



第1章 令和6年度北海道開発局関係予算	… 1
第2章 令和6年度北海道開発予算の概要	
1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化	… 3
2. 我が国のエネルギー供給基地も担うゼロカーボン北海道等の実現	… 9
3. デジタル関連産業の集積支援	… 11
4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり	… 12
5. ウポポイ等を通じたアイヌ文化の復興・創造及び国民理解の促進	… 21
[参考] 令和6年度に着手又は完成・供用が予定されている主な事業	… 22
[参考] 令和6年度北海道開発事業費（当初）による北海道への経済波及効果（試算）	… 23

# 第1章 令和6年度北海道開発局関係予算①

北海道開発の基本的意義は時代の変遷に伴い変化していますが、一貫して、北海道の資源・特性を活かして、その時々の国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図ることを目的としています。

現下の我が国は、ウクライナ情勢や円安等を背景とした、食料安全保障問題の深刻化、エネルギー・食料品や原材料等の価格高騰、2050年カーボンニュートラル実現に向けた取組の一層の加速等、内外の課題に直面しています。

こうした中、G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合の開催、次世代半導体産業や大規模データセンターの進出、ATWS2023<sup>\*1</sup>の開催、洋上風力の「有望な区域」選定といった北海道の動きが上記の我が国の課題解決を牽引しており、「骨太の方針2023<sup>\*2</sup>」においても以下のとおり明記されました。

- 新たな「北海道総合開発計画」を年度内に策定し、我が国のエネルギー供給基地も担うゼロカーボン北海道の実現、食と観光を担う生産空間の維持・発展、デジタル産業の集積促進、北方領土隣接地域の振興等、北海道開発を推進する。
- ウポポイ<sup>\*5</sup>を拠点に文化振興等に取り組み、アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現する。

また、「令和6年度予算編成の基本方針<sup>\*3</sup>」では「食料安全保障及びエネルギー安全保障の強化」が明記されました。

他方、北海道では気候変動により頻発する自然災害や、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震への対応も喫緊の課題となるが、国土強靭化基本法<sup>\*4</sup>の改正により、継続的・安定的な国土強靭化の取組が可能となりました。

令和6年度北海道開発局関係予算は、令和5年度内に閣議決定した第9期北海道総合開発計画の初年度に当たり、その計画及び前述の状況を踏まえ、

- 1 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化
- 2 我が国のエネルギー供給基地も担うゼロカーボン北海道等の実現
- 3 デジタル関連産業の集積支援
- 4 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり
- 5 ウポポイ<sup>\*5</sup>を通じたアイヌ文化の復興・創造及び国民理解の促進
- 6 北方領土隣接地域振興対策

を軸とし、令和5年度補正予算と合わせて切れ目なく取組を進めます。

## ○令和6年度北海道開発局関係予算

うち一括配分

直轄事業	3, 646 億円	( 1, 237 億円)
補助事業	3, 065 億円	( 171 億円)
計	6, 711 億円	( 1, 409 億円)

\*1 アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本 \*2 「経済財政運営と改革の基本方針2023」（令和5年6月16日閣議決定） \*3 令和5年12月8日閣議決定

\*4 「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靭化基本法」（平成25年法律第95号） \*5 民族共生象徴空間。アイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」という意味。

# 第1章 令和6年度北海道開発局関係予算(2)

## 北海道開発局関係予算総括表（事業費）

(単位：百万円)

	令和6年度	令和5年度	対前年度比
直轄事業	364,598	363,444	1.00
補助事業	306,463	291,483	1.05
計	671,061	654,927	1.02

### 【直 輄】

(単位：百万円)

事 項	予 算 額	一括配分額	備 考
治 水	74,632	23,942	
海 岸	479	0	
道 路	190,719	95,635	
港 湾 整 備	14,904	3,188	
空 港 整 備	3,453	0	
都 市 水 環 境 整 備	799	797	
国 営 公 園 等	1,021	0	
農 業 農 村 整 備	60,072	0	
水 産 基 盤 整 備	14,648	0	
官 庁 営 繕	3,871	154	
合 計	364,598	123,716	

- 注 1. 農業農村整備及び水産基盤整備を除き、工事諸費は含まれていない。  
 2. 本表のほか、①公共工事の実施の時期の平準化等を図るため、②防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策に基づく事業等について計画的かつ円滑な事業執行を図るため、ゼロ国債①34,494百万円（うち一括配分額21,562百万円）、②230百万円（うち一括配分額230百万円）を設定している。  
 3. 四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

### 【補 助】

(単位：百万円)

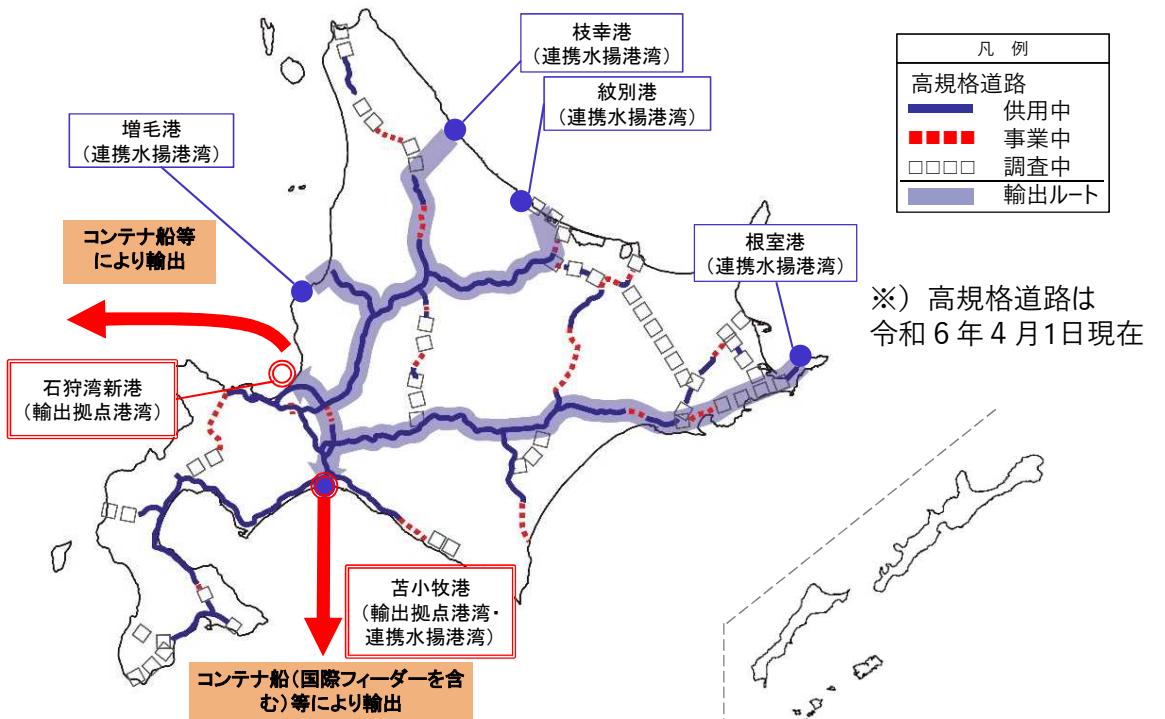
事 項	予 算 額	一括配分額	備 考
治 水	17,672	0	
海 岸	1,058	0	
道 路	44,989	2,300	
港 湾 整 備	692	207	
住 宅 対 策	7,719	7,719	
市 街 地 整 備	7,835	0	
上 下 水 道	56	10	
水 道	6,902	6,901	
下 水 道	2,900	0	
国 営 公 園 等	1,010	0	
農 業 農 村 整 備	37,128	0	
水 産 基 盤 整 備	15,798	0	
社 会 資 本 総 合 整 備	162,547	0	
社 会 資 本 整 備 総 合 付 金	64,289	0	
防 災 ・ 安 全 交 付 金	98,258	0	
社 会 資 本 整 備 総 合 付 金	156	0	
合 計	306,463	17,137	

- 注 1. 本表のほか、公共工事の実施の時期の平準化等を図るため、ゼロ国債3,007百万円を設定している。  
 2. 四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

# 1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化①

- 農林水産業の生産基盤の整備により競争力を強化し、食料供給力の確保・向上を図るとともに、北海道の「食」の高付加価値化や輸出の促進に取り組みます。また、それらを支える道路、港湾、空港による物流ネットワークの整備を推進します。

## ◎北海道港湾における農水産物輸出促進の戦略的取り組み



### ◆輸出環境の改善



冷凍・冷蔵コンテナ電源供給装置の増設  
(石狩湾新港)

### ◆屋根付き岸壁の整備



令和5年10月供用(6棟目)  
紋別港 屋根付き岸壁

### ◆高規格道路の整備



道央圏連絡道路 泉郷道路を通行する物流車両

## ○水産物の輸出促進等のための施設整備

### ・第3種漁港、第4種漁港の整備

屋根付き岸壁や清浄海水導入施設の整備により、水産物の衛生管理対策を推進し、安全・安心な水産物の安定供給と輸出促進を図ります。



衛生管理対策施設  
(追直漁港)



水揚げ状況  
(齒舞漁港)

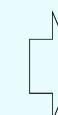
## ○農地の大区画化と担い手への農地集積・集約化の推進

農地の大区画化・汎用化等の基盤整備を実施し、担い手への農地集積・集約化、農業の高付加価値化やスマート農業による省力化を推進しています。

### 大区画化の例



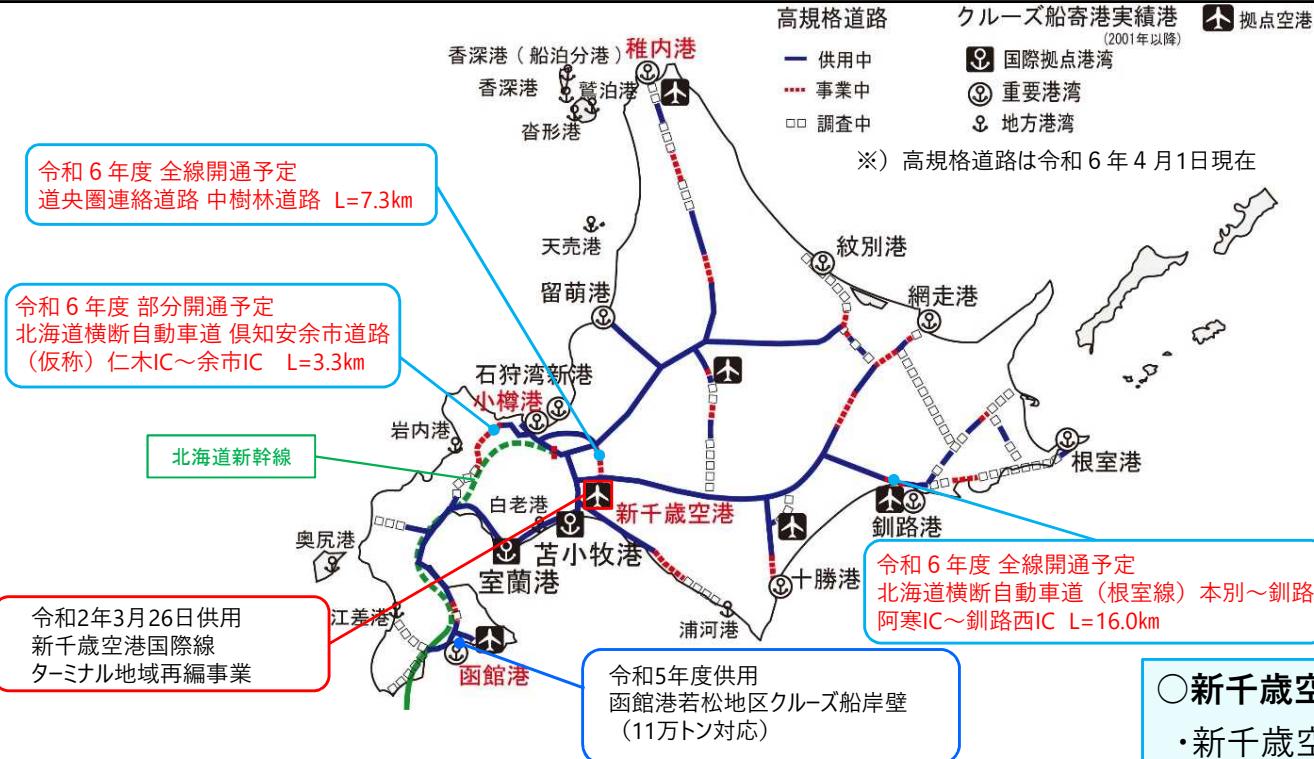
整備前 : 0.3ha



整備後 : 標準区画1.1ha

# 1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化②

- 港湾・空港における国内外旅行者の受入環境の整備、観光地や主要な港湾・空港等への交通アクセスの円滑化を進めるとともに、道内各地の地域資源を活かした魅力ある観光メニューの創出を支援し、道内地方部への誘客促進や世界水準の観光地形成を目指します。



## ○港湾施設整備等によるクルーズ船の寄港促進

- ・ 室蘭港におけるクルーズ船に対応した港湾施設の整備を推進します。
- ・ 各地で国際クルーズの再開が進むなか、北海道においても2024年には133回※の寄港が予定されています。引き続き、ハード・ソフト一体となったクルーズ船の受入環境整備を進めます。



函館港 若松地区 クルーズ船岸壁  
(令和5年9月27日 ダイヤモンド・プリンセス入港)

※北海道開発局調べ（令和6年2月末時点）

## ○高規格道路の延伸による観光地へのアクセス改善

- ・道内拠点都市や港湾・空港と観光地間のネットワーク強化、及び地方部への周遊性強化を図るため、高規格道路ネットワークの構築を推進します。



函館・江差自動車道 北斗茂辺地IC～木古内IC  
(令和4年3月26日開通)

## ○新千歳空港誘導路複線化等による航空機の安定運航

- ・新千歳空港では、除雪作業や航空機のトラブル等により、滑走路が一時的に閉鎖し、遅延や欠航が発生していることから、新たに誘導路等を整備し、航空機の安定運航を図り、国内外旅行者の受入環境の整備を推進します。



誘導路複線化 整備イメージ

# 1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化③

## ○サイクルツーリズムの推進

- 世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境やサイクリストの受入環境の改善、情報発信等の取組を推進します。
- 自転車走行環境の改善



## ・情報発信



- ※ 道路空間を安全に共有する「シェア・ザ・ロード」を推進します。  
▼自転車・大型車相互の走行環境実験を行いました。
- 追い抜かれる自転車側を体験する大型車ドライバー
- 大型車の死角範囲を確認するサイクリスト



※ 「どうなん北海道サイクリルート」が取り組みスタートします。



・北海道サイクリルート連携協議会  
北海道開発局、北海道運輸局、北海道、北海道商工会議所連合会、北海道観光振興機構、シーニックバイウェイ支援センターにより構成

### ・ルート協議会

質の高いサイクルツーリズムを提供する団体。市町村、総合振興局・振興局、開発建設部、民間事業者団体（観光協会、商工会議所等）、自転車関連団体等により構成

## ○インフラツーリズムの推進

- 普段は入ることができないインフラの内部や日々変化する工事中の風景などの非日常を体験することにより、インフラの整備・管理について理解を深めていただくとともに、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すものです。
- 当局が地域と調整し、インフラが支えた地域発展の歴史を柱としたツアー企画案を公募し、旅行会社が催行する「地域共創インフラツアー」に取り組みます。
- 令和3年7月から白鳥大橋（室蘭市）を活用した地域主体のツアーが本格的に始まっています。
- また、令和5年8月、美瑛川ブロック堰堤と十勝岳火山砂防情報センター（美瑛町）が、新たに「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」のモデル地区に選定され、地域と連携して観光資源等の磨き上げを実施。

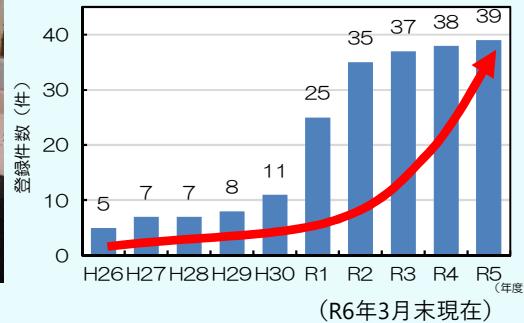


## ○「道の駅」におけるインバウンド観光の促進

- 日本政府観光局（JNTO）外国人案内所の認定取得、全国「道の駅」連絡会と連携したキャッシュレス決済の導入を進め、インバウンド観光への対応強化を促進します。



北海道内の「道の駅」のうち約3割がJNTO  
外国人案内所の認定を取得済み  
(39駅／127駅)



# 1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化④

## ○かわたびほっかいどう

・北海道の豊かな自然と河川に関わる活動を通じて、地域の活性化や振興を図り、北海道の魅力を最大限に引き出すことを目的として、かわたびほっかいどうを推進しています。

### 主な取組事例

#### ●情報発信

HPやSNS等で、水辺の情報を発信し、四季折々のリーフレットを作成し、水辺の魅力をPRしています。



#### ●かわまちづくりからの展開

かわまちづくりで魅力あふれる河川空間をつくり、地域とつながる、水辺や周辺地域の歴史や文化をはぐくことにより、水辺の賑わいの向上を目指します。

天塩地区かわまちづくりで整備したカヌー・ポートを利用して、カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシオーペッ」が開催されています。

砂川地区かわまちづくりで整備した親水護岸を活用した水辺アクティビティのほか、アイスカルーセルなど冬のイベントも実施しています。

北海道の水辺の  
観光情報サイト



かわたび  
ほっかいどう



## ○「みなとオアシス」の活用を通じた賑わいの創出 (みなとオアシスわっかないの事例)

・みなとオアシスわっかないでは、稚内港北防波堤ドームにてWAKKANAIみなとコンサートを開催。コーラスやフラダンス、バンド等の活動を行う市内団体によるステージ発表と港パネル展の実施により、「みなと」を核とした賑わいを創出。



WAKKANAIみなとコンサート

## ○外国人ドライブ観光の推進

・道内地方部への誘客を促進するため、外国人ドライブ観光客の移動経路等のデータを「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」（構成員（地方公共団体、観光団体等）：令和6年2月末現在108機関）で共有し、構成員による情報発信等活用の機会を提供。

## ○シーニックバイウェイ「秀逸な道」

・道内各地の活動団体がお薦めする特に魅力ある景観等を有する道路12区間を認定し、本格展開を開始しました。景観の維持・形成や誘客に向けた情報発信等を重点的に実施し、ドライブ観光をより一層促進します。



「秀逸な道」現地看板設置によるPR



シーニックバイウェイ  
「秀逸な道」HP  
<https://roads.scenicbyway.jp/>



## ○「わが村は美しく－北海道」運動による地域活性化

・北海道の農林水産業をより「豊かに」、農山漁村がより「美しく」なることをめざし、「景観」・「地域特産物」・「人の交流」を地域資源ととらえ、「いいもの」を多くの人に伝えるため、コンクールなど様々な取組で地域を支援しています。  
・第11回コンクールでは優秀賞12団体、奨励賞18団体決定し、第1回からこれまで全道179市町村のうち173市町村、913団体に参加していただきました。



第10回コンクール大賞表彰式  
(R4.11.10)



パネル展  
(大通BISSE)



景観ワークショップ  
(北海道帯広農業高等学校)



“わが村は美しく－北海道”

# 1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化⑤

- 北海道では全国に先んじて人口減少が進んでおり、定住人口のみでは、地域コミュニティや生産空間の維持が困難となっていくことが懸念されます。
- 関係人口の創出・拡大等による活力ある地域コミュニティを実現するため、人への投資と多様な人材・主体による共創を図ります。

## ○ 「ほっかいどう学」の展開

「ほっかいどう学」とは、子どもから大人まで、より多くの人々が地域づくりに関心を持つ契機を創出するため、地理、歴史、文化、産業等の北海道の魅力や個性について幅広く学ぶ取組のことです。

北海道開発局、認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム、教育機関などが連携して「ほっかいどう学」を展開しています。

NPOと共に開催する「ほっかいどう学ツアーア」では、小中学校の教員を中心とする教育関係者に、北海道開発局が整備・維持管理するインフラや、地域づくりの取組を実際に見たり、それらに携わる方々の話を聞いたりしてもらっています。「ほっかいどう学」に触れてもらい、総合的な学習の時間等で子どもたちに伝えてもらえるような題材を提供することを目的としています。



(上) 小樽で開催した「ほっかいどう学ツアーア」の様子。船上から小樽港の防波堤などを見学しながら、港の発展の歴史と港湾施設の役割について学んでもらいました。

## ○ インフラ施設管理に関する技術者育成

・北海道開発局では、インフラを管理・運用する地方公共団体職員等の技術力向上のため、インフラ点検・診断に関する現地講習会を各部門で実施しています。

### ■ 北海道技術者育成プラットフォーム

・道内の自治体や民間企業などの実務経験が浅い若手土木技術者を対象にした講習会や研修会を開催しており、令和5年度に開催したオンライン講習会（3開催）、研修会（1開催）、現地講習会（3会場）では、延べ350名を超える土木技術者が参加しています。

### ■ 港湾施設の維持管理に関する現地講習会

・開発局職員が現地に赴き、維持管理に関する説明と現地での点検方法等を協働で実施する講習会を開催しています。

### ■ 道路施設の老朽化対策に関する現地講習会

・道路メンテナンス会議等を活用し地方公共団体職員の技術力の向上に向けた講習会等を開催しています。



道路施設の現地講習会状況

## ○ 地域づくり人材の交流

交流会の実施や、SNSコミュニティにおける情報交換を通じて、各地・各分野で地域づくりに取り組む方々の交流の活性化を促しています。交流の活性化が共創につながることを目指しています。

(右) 令和5年12月14日に開催したWeb交流会「地域の魅力を磨く・伝える」の様子



## 1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化⑥

- 北海道の生産空間は、我が国の食料供給基地として貢献するとともに、国民共通の資産と言える豊かな自然環境、特徴ある景観等も提供し、我が国にとって欠かすことのできない役割を担っています。
  - 今後、人口減少・高齢化の急速な進展等により、北海道の地方部における定住環境の確保が困難になると、北海道の強みである「食」と「観光」等を担い、我が国の発展に貢献している生産空間の維持が困難になるおそれがあります。
  - 生産空間の維持・発展を中心課題として取り組むとともに、高次都市機能を有する札幌都心部とのアクセス性向上や札幌駅周辺の交通結節機能の強化により生産空間・地方部の市街地・圏域中心都市からなる北海道型地域構造の保持・形成を図ります。

#### ○生産空間の維持・発展に向けた取り組み

- ・生産空間を支える「物流」の維持を目的に、関係団体、民間事業者等と連携し、共同輸送・中継輸送を推進するため、各種実証実験等を進めています。



## シンポジウムの開催



北海道物流WEEK

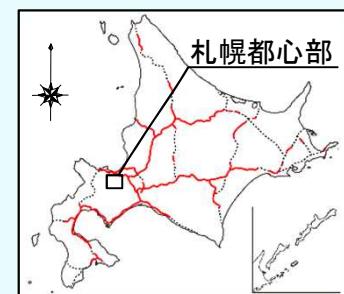
行政機関・関係団体・民間事業者等が連携し「北海道物流WEEK」と銘打ち連動して各種イベントを開催。



北海道の物流と地域の将来を考える2日間		北海道物流WEEK
<b>第1便</b> 2/19 (月) ～20 (火)	北海道商工会議所・北海道運輸局 「同感輪・中越連携を考えるシンポジウム」 経済産業省(北海道資源産業局) 「北海道地域フィジカル・インターネット懇談会」	(各機関のホームページをご確認ください)
<b>第2便</b> 2/21 (水) ～22 (木)	北海道の物流と地域の将来を考える実証実験 JR貨物×北海道資源産業会議の共催による モダルコンビネーション推進に向けた新たなチャレンジの2days	(JR貨物(株)のホームページをご確認ください)
<b>第3便</b> 2/21 (水)	トラック運送業者連携・共創の集い in十勝 北海道運輸局・北海道開発局の共催によりマッチングイベントを開催	
<b>第4便</b> 2/21 (水)	北海道トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会 北海道運輸局・北海道労働局・北海道トラック協会の共催により開催	(詳細は後日公表)
<b>第5便</b> 2/22 (木)	北海道物流研究会 新規事業開拓セミナー(北海道物流ネットワークの構成に向けた検討を行った形、イオン北海道(他)、(株)西友、(株)トライアルホールディングス、北拓ラッカー(株)など業界に賛同する14社で令和5年5月に見是	
<b>第6便</b> 2/22 (木)	日本をスマップボディで元気にしたい!スマップボディコンテナ車両展示会 札幌商工会議所運輸・自動車部会・北海道物流人連合会の共催により開催	(詳細は後日公表)

## ○札幌都心部とのアクセス性向上・札幌駅周辺の交通結節機能強化

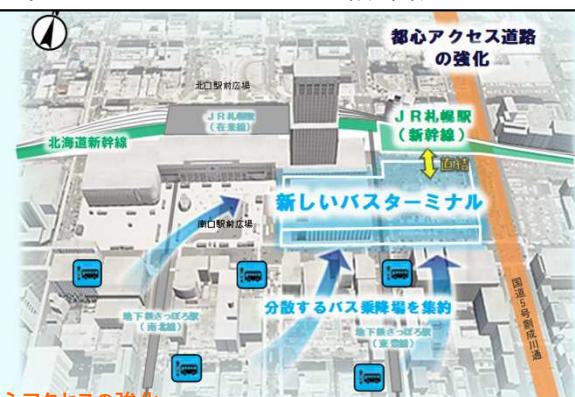
- ・北海道全域との広域的な交流・連携機能の確保を目指し、札幌都心部へのアクセス道路（創成川通）の整備を推進します。
  - ・道都札幌の玄関口にふさわしい空間の形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を目指し、新しいバスターミナルの整備を推進します。



## 高速道路と札幌都心との アクセス強化（創成川通）



## 札幌駅周辺における交通結節機能の強化



都心アクセスの強化

- ・交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化

新幹線駅との連携

- ・新幹線駅との一体的な整備および新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一大交通結節点を京成

新しいバスターミナル

- ・都市間バス、路線バスを集約するバスターミナルを整備
  - ・多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化



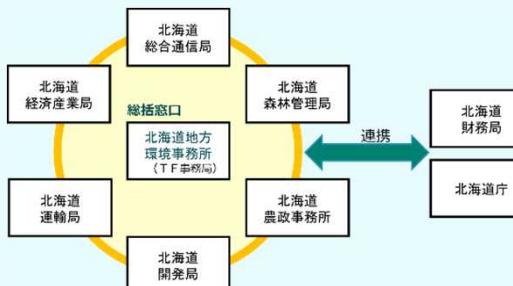
## 2. 我が国のエネルギー供給基地も担うゼロカーボン北海道等の実現①

- 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、インフラにおける再生可能エネルギーの導入・利用拡大を図るほか、環境負荷の少ない交通・物流基盤の構築、グリーンインフラを活用した自然共生地域づくり、ブルーカーボン生態系によるCO<sub>2</sub>吸収量の調査、道内建設業におけるカーボンニュートラルの意識醸成を図る「北海道インフラゼロカーボン試行工事」等の取組を進めます。

### ○「ゼロカーボン北海道」タスクフォース

- 今後全国で展開される地域脱炭素の取組の先導役となることが期待される北海道地域を支援する体制として設置された各省庁の連携組織（令和3年8月）。
- 地方支分部局レベル会合では、脱炭素に関する道内市町村からの相談窓口「ゼロ北テラス」設置、地域脱炭素関連補助施策をまとめた「ゼロ北ハンドブック」作成などにより、地域を機動的に支援。

### 「ゼロカーボン北海道」タスクフォース・地方支分部局レベル会合



7つの地方支分部局で構成、オブザーバーとして北海道財務局、北海道が参画。

### ○道路排雪の冷熱エネルギーとしての利活用

- 冬に国道の排雪を積みておき、夏に周辺施設（料貯蔵施設、養護老人ホーム等）の冷熱エネルギーとして利活用を推進。



### ○木材バンク

- 洪水氾濫防止対策として実施する河畔林の樹木伐採で発生する伐採木の一部はバイオマス資源として有効活用。
- これまで、北海道開発局・北海道が河川管理に当たり個別に実施してきた有効利用の取組について、ホームページ等において一括した情報提供等（「木材バンク」）を行うことにより、更なる活用を図る。

#### 河川管理者



#### バイオマス事業者（発電・ボイラー等）等



#### ＜木材バンク＞

河道内から発生する伐採木に関する情報提供（予定数量、保管場所、保管時期等）

### ○北海道インフラゼロカーボン試行工事

- 北海道開発局、北海道、札幌市、鉄道建設・運輸施設整備支援機構（JRTT）及びNEXCO東日本北海道支社の発注工事において、工事成績にインセンティブを付与し、道内建設業におけるカーボンニュートラルの意識醸成を図る「北海道インフラゼロカーボン試行工事」の取組を推進。

#### 令和4年より「北海道インフラゼロカーボン試行工事」を実施

- | ① 工事開始時（発注者）  | ② 工事実施（受注者）                           | ③ 工事終了時（発注者）                      |
|---|---------------------------------------|-----------------------------------|
| ・施工計画書にCO <sub>2</sub> 削減に資する取組の記載を求める（建設機械、材料、工法等） | ・施工計画書に基づき、具体的なCO <sub>2</sub> 削減策を実施 | ・CO <sub>2</sub> 削減の取組を工事成績にて1点加点 |

- ⑤ 改 善
- ・次年度のインセンティブ付与条件等の取組内容を検討

- ④ 業界側との意見交換
- ・工事成績のインセンティブのあり方や改善点等について建設業団体と意見交換

- 北海道開発局ホームページに昨年度試行工事の事例集を掲載（期待される効果やCO<sub>2</sub>削減量もわかりやすく記載）



## 2. 我が国のエネルギー供給基地も担うゼロカーボン北海道等の実現②

### ○北海道エコ・コンストラクションイニシアティブ

- ・社会資本整備の施工段階での環境負荷軽減に取り組む「北海道エコ・コンストラクションイニシアティブ」を実施。



### ◆工事現場から排出されるCO<sub>2</sub>を削減

- ・ICT施工により効率化を図り、建設機械から排出されるCO<sub>2</sub>を削減。
- ・遠隔臨場により、職員の移動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を削減。

### ○「道の駅」を活用した次世代自動車普及促進の取組

- ◆急速EV充電施設：EVの普及に向け、道の駅への急速充電施設の設置を促進するため、市町村等に設置事例や支援制度を情報提供するとともに、相談に対応。



### ○LED化による消費電力の削減の取組

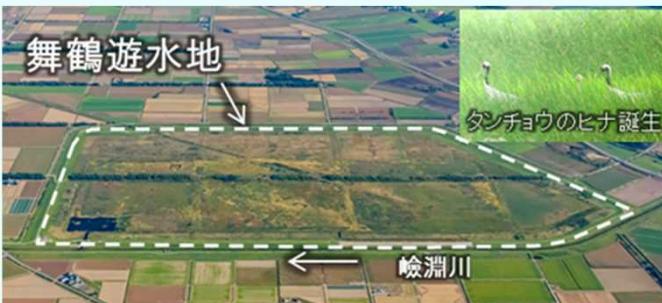
- ◆LED化：道路照明灯をLED化するとともに、設置間隔を広げることにより、消費電力量を削減し、CO<sub>2</sub>排出量を削減。



### ○グリーンインフラを活用した取組

#### ◆タンチョウも住めるまちづくり

- ・千歳川では洪水時の被害の軽減を図るために遊水地群を整備。
- ・舞鶴遊水地では、遊水地内の多様な機能を活用し、生態系ネットワークを構築する取組を推進。



### ○再生可能エネルギーの活用

- ◆ダムによる水力発電：北海道開発局が管理する18のダムで水力発電を実施。令和4年度の総電力量は、約90万MWhで30万世帯の年間の消費電力に相当。また、治水機能の強化と水力発電の促進を両立させる「ハイブリッドダム」の取組を推進。

- ◆農業施設を利用した小水力発電：農業水利施設を活用した小水力発電を5カ所で導入または整備中であり、農業水利施設の維持管理費軽減にも寄与。

#### <当永発電所（当麻町）>

- ・当麻永山用水地区では、用水路等の改修とあわせて小水力発電施設を整備。



### ○カーボンニュートラルポート(CNP)の形成

- ・室蘭港と苫小牧港では、港湾管理者が港湾脱炭素化推進計画を策定。
- ・稚内港と石狩湾新港では、計画策定に向けた協議会を設立済。
- ・今後、民間企業との連携等により社会実装に向けた具体的検討を進める。

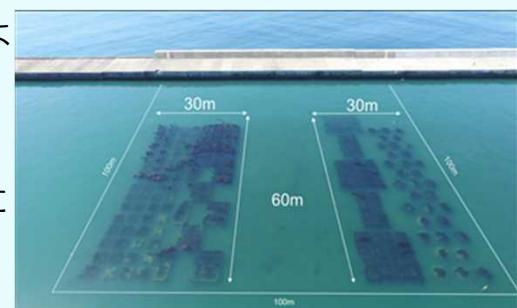
### ○官庁営繕におけるZEB化の推進

- ・庁舎新築にあたり、ZEB化、太陽光発電設備の採用、積極的な木材利用等を実施。



### ○ブルーインフラの推進

- ・函館港と釧路港では、ブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>貯留の推進等のため、防波堤背後に浚渫土砂を有効活用した背後盛土を整備中。
- ・天然コンブ藻場のCO<sub>2</sub>吸収量を効率的に算出するため、北海道大学と連携して、ドローン画像からAI画像解析を行い、効率的に藻場面積を判別する手法を開発。



### 3. デジタル関連産業の集積支援

- 北海道の広大な大地や積雪寒冷な気象条件、全国随一の再エネポテンシャル等を活かし、デジタル産業等のこれからの成長が期待される産業を育成・振興することに貢献する。
- 成長産業を交通・物流面で支える道路ネットワーク及び港湾・空港の整備を推進し、大規模データセンターの誘致など、デジタル関連産業の集積支援を図る。

#### ○道央圏の産業を支えるインフラ整備



#### 道路整備

災害に強い国土幹線道路ネットワーク構築のため、物流拠点へのアクセス向上に寄与する道央圏連絡道路の整備を推進。

中樹林道路は令和 6 年度の開通を目指し整備推進。



中樹林道路 施工状況

#### 空港整備

新千歳空港では、冬期の航空機や除雪車両の混雑を緩和し、駐機場への引き返しを減らす事で安定運航を図るため、誘導路複線化や防除雪氷作業を行うデアイシングエプロンの整備等を推進。



降雪時の防除雪氷作業  
(新千歳空港)

#### 港湾整備

苫小牧港では、バース増設によるフェリーの輸送効率化および大規模地震発生時の緊急物資輸送等に対応するため、耐震性能を有する複合一貫輸送ターミナルの整備を推進。



東港区 浜厚真地区 整備イメージ

## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり①

### ○あらゆる関係者が協働して行う流域治水対策

- ・北海道は、国内でも気候変動の影響を受けやすい地域であり、地域区分毎の降雨量が $2^{\circ}\text{C}$ 上昇時に1.15倍に増大する※と予想されております。
- ・このような気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、氾濫域も含めて一つの流域と捉え、地域の特性に応じ、府省庁・官民が連携したあらゆる関係者が協働して行う「流域治水」を推進するため「北海道開発局流域治水推進室」を設置しています。
- ・この「流域治水」の取組の一環として、「河川整備基本方針及び河川整備計画の変更も含め、さらなる河川整備、農村地域の排水対策のための農業水利施設の整備等を推進します。



あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」



### ○道路の防災・減災対策

- ・「防災・減災、国土強靭化に向けた道路の5か年対策プログラム（北海道ブロック版）」（令和3年4月策定）に基づき、代替性確保のための高規格道路等の整備や緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強、道路における斜面対策、防雪対策等の防災対策を推進します。

▼災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能強化



▼河川隣接構造物の流失防止対策



▼道路法面・盛土の土砂災害防止対策



▼無電柱化対策

※電柱倒壊による道路閉塞等の被害を防止するため、市街地の緊急輸送道路の無電柱化を推進



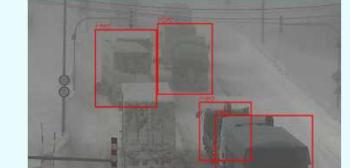
舗装のひび割れ

▼盛土区間等を活用した津波や洪水からの浸水対策  
※浸水想定エリア (低床地) から高台にある道路等への避難施設を整備



▼ITを活用した道路管理体制の強化対策

※AI技術を活用してカメラ映像を解析し、走行車両の事故（停止、低速、混雑）を検知し、道路上の異常事象を早期に把握

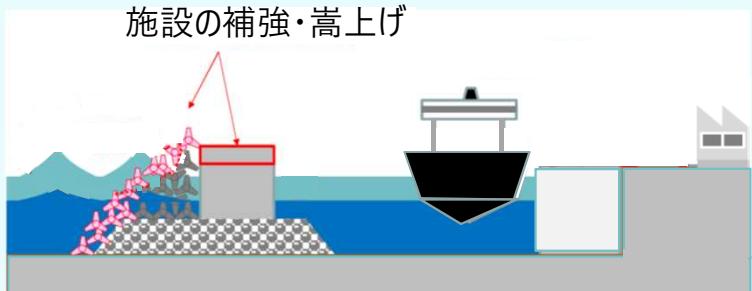


## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり②

### ○港湾の耐災害性強化対策

- 海上交通ネットワークを維持し、国民経済・生活を支えるため、港湾の耐災害性強化対策（高潮・高波対策及び埋塞対策）を実施します。

施設の補強・嵩上げ



対策イメージ

対策効果例  
(越波を抑制し、海上交通ネットワークを維持)

### ○漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化等の対策

- 岸壁等の耐震・耐津波化、防波堤等の耐浪化、越波対策等を実施します。



防波堤の越波対策

### ○予防保全型のメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策

- 予防保全型インフラメンテナンスへの転換を図るため、河川、道路、港湾、農業水利施設、水産基盤施設等の重要インフラについて、早期の対応が必要な施設への集中的な対策を行います。



港湾における対策効果例

(矢板が腐食した係留施設を改良し、安全な利用を確保)

新技术（本体工被覆）  
を活用した長寿命化対策引き上げ式ゲート  
(扉の開閉操作が必要)

樋門函体の劣化状況



舗装補修



トンネルの点検状況



老朽化した農業用用水路の改修

フラップゲート  
(扉の開閉操作が不要)

樋門扉体の劣化状況

無動力化により、緊急時において  
自動で洪水の逆流を防止

## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり③

### ○空港の防災・減災対策

- ・大規模地震災害時における緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワーク及び背後圏の経済活動を維持するため、滑走路の液状化対策や地下構造物における耐震対策を推進します。



地下構造物の耐震対策(新千歳空港)

### ○農業水利施設の保全・更新と地域の防災・減災力の向上

- ・農業水利施設の計画的な保全・更新等により、施設の長寿命化・耐震化や排水機能の強化や回復を推進し、農業の生産力の維持・向上と併せて地域の防災・減災力の向上を図ります。
- ・令和6年度は篠津運河下流地区・清川二期地区の国営かんがい排水事業、川湯跡佐北・南地区の国営総合農地防災事業に着手します。

#### 篠津運河下流地区の例

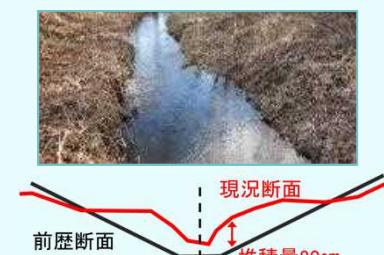


用水路からの漏水



用水路の更新（イメージ）

#### 川湯跡佐南地区の例



排水路の機能低下



排水路の更新（イメージ）

### ○氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

#### ●遊水地の整備

- ・石狩の根幹的な治水対策として、北村遊水地整備事業を推進します。



北村遊水地（岩見沢市）

#### ●ダムの建設・再生

- ・幾春別川総合開発事業及び雨竜川ダム再生事業を推進するとともに、令和6年度より新たに治水機能増強検討調査に着手した糠平ダム再生事業を推進します。

新桂沢ダム  
(三笠市)

#### ●土砂災害対策

- ・土砂災害や流木被害の発生に備え、砂防堰堤や流路拡幅等の整備を推進します。

十勝川水系戸鳥別川  
第2号砂防堰堤（帯広市）

#### ●火山噴火対策

- ・火山噴火の発生に備え、火山泥流による被害の防止・軽減のための砂防堰堤等の整備を推進します。

樽前山覚生川2号砂防堰堤  
(苦小牧市)

## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり④

### ○一般国道39号 女満別空港網走道路

#### (女満別空港～網走呼人)

##### 1. 概要

一般国道39号女満別空港網走道路（女満別空港～網走呼人）は、洪水浸水や地吹雪などの災害時においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築し、安全性や輸送効率の高い物流ネットワークを形成することによる地域産業の活性化、女満別空港から観光拠点への速達性向上による観光振興等を支援すること等を目的とした延長10.9kmの一般国道のバイパス事業です。

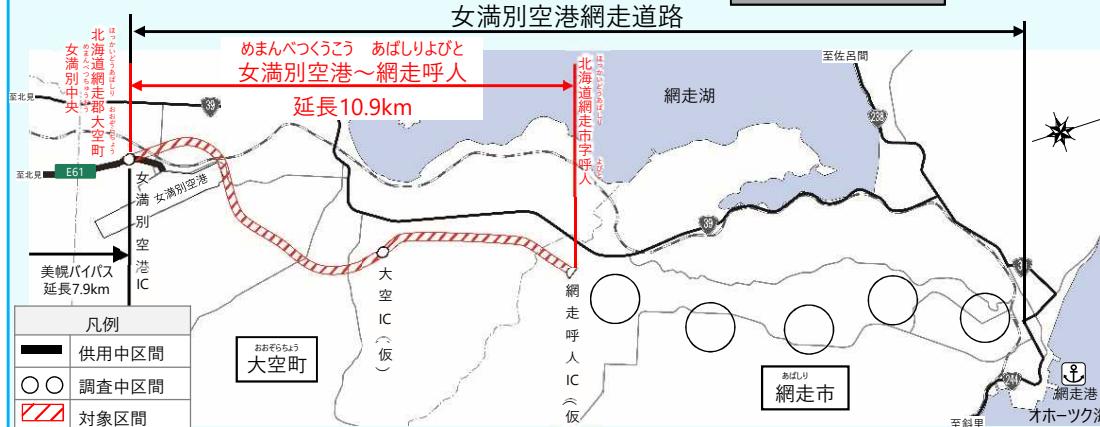
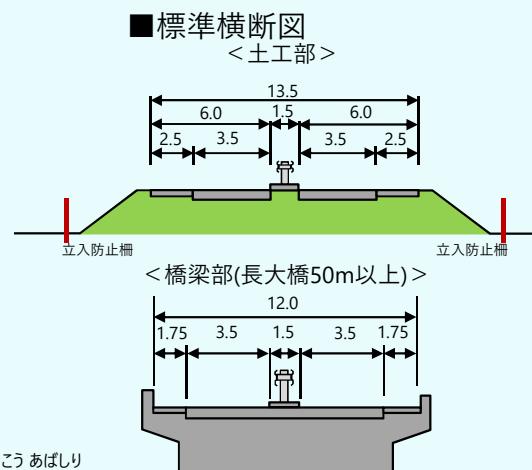
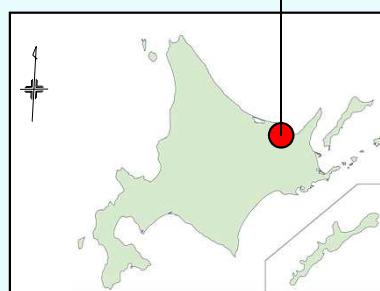
##### 2. 計画内容

箇所名：北海道網走郡大空町女満別中央～北海道網走市字呼人

延長：L = 10.9km

##### ■箇所図

めまんべつくうあばしり  
女満別空港網走道路  
めまんべつくう あばしりよびと  
(女満別空港～網走呼人)



### ○一般国道5号蘭越俱知安道路（ニセコ～俱知安）

##### 1. 概要

一般国道5号蘭越俱知安道路（ニセコ～俱知安）は、俱知安市街地等における交通事故低減による安全性の向上、拠点空港新千歳空港から国際的観光地ニセコへの速達性の向上により、観光振興による地域の活性化支援及び有珠山噴火等の災害時の代替路として寄与することを目的とした延長11.7kmの一般国道のバイパス事業です。

##### 2. 計画内容

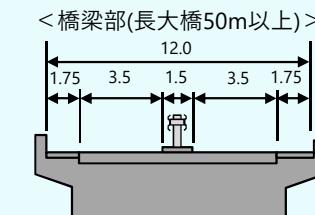
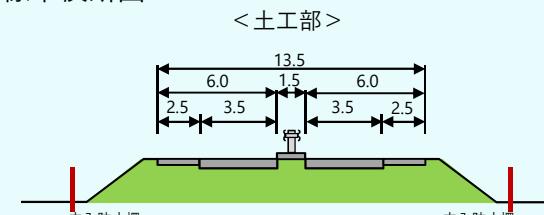
箇所名：北海道虻田郡ニセコ町元町～北海道虻田郡俱知安町字旭

延長：L = 11.7km

##### ■箇所図



##### ■標準横断図



## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり⑤

### ○子供の安全な通行の確保に向けた道路交通環境整備

・事故多発区間での事故データを用いた分析やビッグデータを活用した潜在的危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」※を推進するとともに、自転車事故の危険性が高い区間については、自転車走行空間整備を計画的に推進します。また、通学路における安全対策においては、令和3年6月に千葉県八街市で発生した事故を受けて実施した通学路合同点検の結果に基づき、対策を推進します。



通学路の交通安全対策

※事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組

### ■事故危険区間（国道）の死傷事故・死亡事故推移



### ○冬期交通の確保

・冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格道路の整備、国道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。

また、災害発生時における取組として、道路管理者間で連携した情報共有やSNSを活用した情報発信、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊：リエゾン注）を含む）派遣による自治体支援に向けた情報収集などを、円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）

### ■防雪対策



防雪柵の整備



自発光式の視線誘導標

### ○防災等の向上に資する無電柱化の推進

・道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術を積極的に導入しつつ、スピードアップを図ります。

### ■電線・電柱の課題例



暴風雪による電柱倒壊  
(幕別町 国道38号)

### ■緊急輸送道路における防災性の向上事例



道路の防災性の向上（釧路市 国道44号）

## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり⑥

### ○北海道道路啓開計画の策定

・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などによる大規模災害時における道路啓開を迅速に行うため、道路管理者及び関係機関で構成される「北海道道路啓開計画検討協議会」を設立し、北海道道路啓開計画（令和2年初版、令和4年第2版）を策定しました。



### ○ダム再生の推進

・既存ダムの有効活用のため、令和5年度から建設段階に移行した雨竜川ダム再生事業を推進するとともに、令和6年度より新たに治水機能増強検討調査に着手した糠平ダム再生事業を推進します。



### ○道の駅の防災拠点化

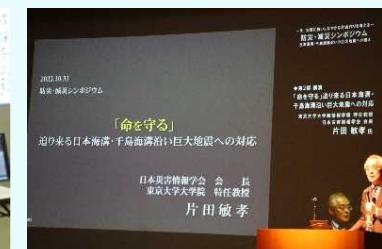
・令和3年6月には地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置づけられている道の駅のうち、北海道内では4駅を「防災道の駅」に選定しています。また、広域災害応急対策の拠点となる防災機能を有する「道の駅」の駐車場を「防災拠点自動車駐車場」として指定しており、令和6年3月末時点で北海道内では36駅を指定しています。

・「防災道の駅」をはじめとする地域防災計画に位置付けられた「道の駅」では、更なる防災機能の強化に向けて、BCPに基づく防災訓練等について重点的に支援していきます。



### ○地域防災力向上に向けた取組の推進

・「自助」と「共助」の強化を図るため、自治体や地域住民等と連携して、防災に関する住民意識の向上や地域防災を担う人材の育成を推進します。



## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり⑦

### ○ NORTH-AI/Eye

～官学連携したAIの活用によるインフラ管理のイノベーション～

北海道大学大学院  
情報科学研究院

北海道開発局

官学連携したAIの活用による  
インフラ管理のイノベーション



・インフラの点検作業の効率化に向けて、北海道大学大学院情報科学研究院と連携協定を締結し、官学連携したAIの活用によるインフラ管理のイノベーション「NORTH-AI/Eye」を推進します。  
・現在、「AI技術等を活用した河川巡視・点検の効率化技術（AI/Eye River）」と「AIを活用した道路附属物点検の効率化技術」の取組を進めており、現場作業等の時間短縮、評価・診断・判断の均一性向上を目指します。

### ■AI/Eye River（河川管理の高度化・効率化に向けた取組）

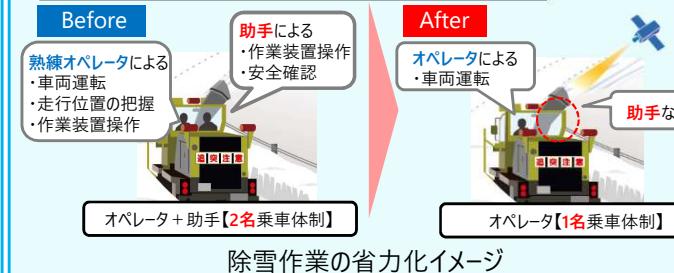
- ・将来の担い手不足やインフラ老朽化の進展等に対応するため、生産性向上を目指すインフラDXの一環として、河川管理分野ではデジタル技術を活用して河川管理等の高度化・効率化を図る取組を進めます。
- ・令和6年度は技術開発とAIによる自動検知精度の検証を行い、試行・導入に向けて検討を進めます。



### ○除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組（i-Snow®）

・人口減少や高齢化が進む中、除雪機械の熟練オペレータの高齢化や担い手不足など、除雪を取り巻く課題の解決のため、準天頂衛星「みちびき」と「高精度3Dマップデータ」を活用した運転支援ガイダンスや、投雪作業自動化の実証実験・実働配備を行っています。機械操作の自動化により、2名体制で行う除雪機械の運転操作が1名体制でも可能となり、人口減少下でも必要な除雪サービスを維持します。

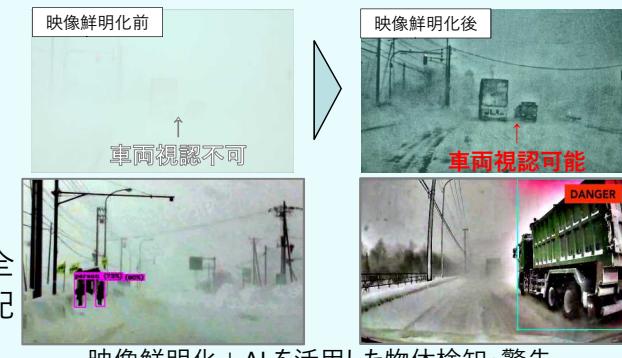
#### ■ロータリ除雪車の投雪作業自動化



『除雪装置自動制御付』ロータリ除雪車

#### ■吹雪時の映像鮮明化技術

- ・映像鮮明化技術を用いることで、吹雪時の除雪作業の安全性が向上します。
- ・吹雪等の視界不良時でも約100m先まで視認が可能になります。
- ・映像鮮明化技術は、令和3年度から全道へ実働配備を開始しており、今後も配備を拡大します。



### ○SMART – Grass(堤防除草の自動化)

- ・堤防除草の生産性向上のため、GNSS測位技術と河川堤防3Dデータを活用した除草機械の自動化を進めています。
- ・令和2年度に検討を開始し、令和5年度の省人化に向けた自動除草機2台の協調運転の実証試験により、一人で2台を管理できる大型自動除草機が概成しました。
- ・令和6年度は、施工者に自動運転してもらう大規模実証試験を行い、導入に向けて運用上の課題を抽出するとともに、操作指導や故障サポートなどの施工者の支援体制の構築を行います。

※SMART-Grass:

Self-Moving And Remote-sensing Technique for Grass-cutting



河川堤防における令和5年度実証試験

## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり⑧

## 北海道開発局からのTEC-FORCE派遣等による自治体支援状況

- 平成28年8月の北海道での台風災害（4つの台風の上陸又は接近）や平成30年北海道胆振東部地震等において北海道内の被災自治体の被害状況調査、応急対策等を支援するため、大規模なTEC-FORCE派遣を実施しました。
- 北海外に対しても、近年では、令和6年能登半島地震（石川県）、令和2年7月豪雨（熊本県）、令和元年東日本台風（台風第19号）においてTEC-FORCE隊員の広域派遣を実施しました。

北海道開発局TEC-FORCE派遣実績（主な災害）

年度	災害名	派遣		延べ人数 (人・日)
		管内	広域	
H20	岩手・宮城内陸地震	○		12
	岩手沿岸北部地震	○		24
H22	東日本大震災	○	○	823
H26	8月5日低気圧に伴う大雨	○		83
	8月23日からの低気圧に伴う大雨	○		83
H27	羅臼町海岸地すべり	○		4
	関東・東北豪雨（宮城県）	○		54
	台風23号から変わった低気圧	○		19
H28	熊本地震	○		572
	7月27日から8月4日からの低気圧	○		15
	北海道での台風災害	○		1199
H29	7月22日からの梅雨前線豪雨（秋田・宮城県）	○		32
H30	7月2日からの大雨	○		56
	西日本を中心とした豪雨（広島・香川・愛媛県）	○		873
	北海道胆振東部地震	○		1557
	北海道胆振地方の地震	○		37
R1	令和元年8月8日から9日にかけての大雨	○		7
	令和元年房総半島台風（台風第15号）	○		27
	令和元年東日本台風（台風第19号）	○		1339
R2	令和2年7月豪雨（熊本県）	○		629
	令和2年台風第10号（宮崎県）	○		30
R3	福德岡ノ湯噴火に伴う漂流軽石対応	○		16
R4	宗谷地方北部を震源とする地震	○		5
R5	北海道浦河沖を震源とする地震	○		2
	8月3日からの大雨	○		2
	令和6年能登半島地震	○		454
	※R6.3.18時点			

H28年 北海道での台風災害



H30年 北海道胆振東部地震



R1年 令和元年東日本台風(台風第19号)



R6年 令和6年能登半島地震



## 4. 安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり⑨

- 生産年齢人口が減少する中、建設業の担い手不足は喫緊の課題であり、働き方改革や生産性向上によって建設業の魅力アップを図ることが求められています。
- 北海道開発局では「北海道開発局建設業等の働き方改革推進本部」ならびに「北海道開発局DX推進本部」を設置し、労働環境の改善および技術者・技能労働者の確保・育成やそれらの活躍に資する施策やICTの全面的な活用等の i-Constructionによる生産性向上の取組を推進しています。

### <働き方改革の推進>

#### ◆週休2日の「質の向上」の拡大

- ・月単位における週休2日工事を推進。
- ・年間を通じた土曜閉所の取組を継続。



#### ◆工事・業務における現場環境改善

- ・施工効率向上プロジェクトや「業務成果」品質向上プロジェクトを通じた「ウイークリースタンス」の徹底。

<参考>令和5年度 施工効率向上プロジェクト ⑥業務環境改善より

##### ※標準3項目

- 「依頼日・時間及び期限に関すること」
- 「会議・打合せに関すること」
- 「業務時間外の連絡に関すること」

勤務時間内	
月	依頼の期限に注意!
火	15時以降の依頼に注意!
水	15時以降の依頼に注意!
木	15時以降の依頼に注意!
金	15時以降の依頼に注意!
土	15時以降の依頼に注意!
日	15時以降の依頼に注意!
月	依頼の期限に注意!

#### ◆受注業者の書類作成業務のさらなる負担軽減

- ・「工事書類の簡素化のポイント」を活用した受発注者の書類の明確化による負担軽減。



##### 工事書類簡素化のポイント

- 工事書類の原則電子化(ASP活用)
- 受発注者間で作成書類の役割分担を明確化
- 作成・添付不要な書類の明確化
- 書類の二重作成・提出防止
- 検査書類限定型工事の実施
- 遠隔臨場を活用し、段階確認、材料確認、立会の効率化

### <i-Constructionの推進>

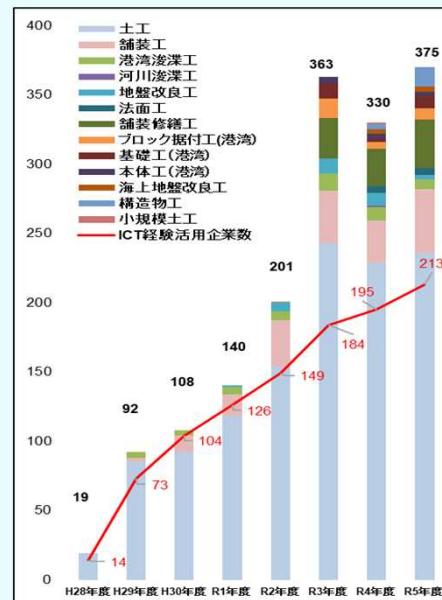
#### ◆ICTの全面的な活用

- ・調査・測量、設計、施工、検査及び維持管理・更新のあらゆるプロセスにICT等を取り入れることで建設現場の生産性を向上。

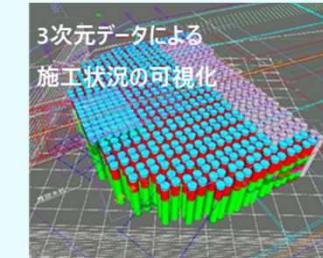
#### ◆BIM/CIMの推進

- ・DXデータセンターや新たな支援制度を活用し、BIM/CIM活用工事・業務を推進。

##### <ICT活用工事の実施状況(R5.12末時点)>



##### <BIM/CIM活用業務・工事の実施状況(R5.12末時点)>



#### ◆ICT・BIM/CIMアドバイザー制度の活用

- ICTやBIM/CIM活用について、先進的に行っている企業を「北海道開発局ICT・BIM/CIMアドバイザー」として登録し、発注機関や地元企業等が実践的なアドバイス等が受けられる制度を活用し、地方公共団体等の発注機関や中小企業への普及促進を図る。

## 5. ウポポイ等を通じたアイヌ文化の復興・創造及び国民理解の促進

- アイヌ文化の復興・創造等の拠点として造られた「民族共生象徴空間（愛称ウポポイ※）」では、国内外から多くの人々が訪れ、アイヌ文化の素晴らしさを体験し、民族共生の理念に共感してもらえるよう魅力的なプログラムやイベント等の充実、発信に取り組んでいます。北海道開発局としても、関係機関と協力し、誘客促進に向けたPR活動等を進めて参ります。

※ウポポイ：アイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」という意味

ウポポイ全景



○令和5年度の主なイベント



・4/29～5/7 ゴールデンウィークイベント  
ゴールデンウィークに特別プログラムなどを実施



・7/15～17 ウポポイ祭  
3周年を記念してアイヌ文化を盛り込む日程  
おかげさまで3周年



・11/3 ウポポイ無料開放DAY  
1日の来場者数が過去最高の6,692人を記録



・2/3～11冬のイベント（展示は2/4～11）  
トナカイの雪像やトナカイのソリが登場  
映画『ゴールデンカムイ』展（衣装等展示）も同時開催

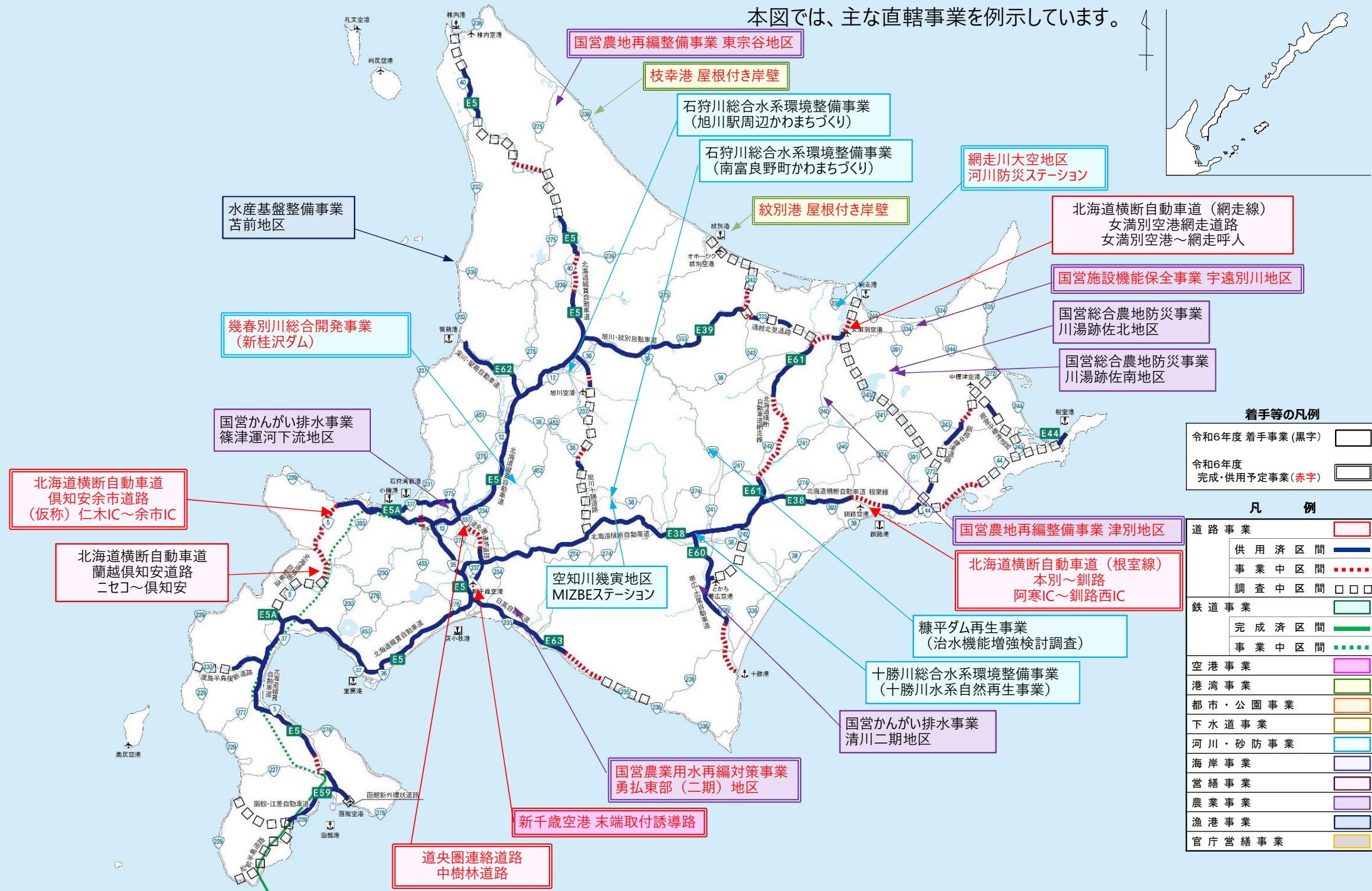
○プログラムの一例

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1 伝統芸能上演      | 4 刺繡体験     |
| 2 アイヌ語学習プログラム | 5 ポロトコタンの夜 |
| 3 衣裳体験        | 6 イルミネーション |



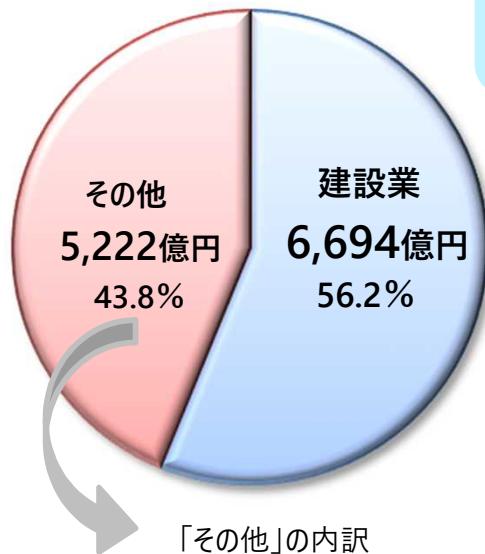
## [参考] 令和6年度に着手又は完成・供用が予定されている主要な事業

本図では、主な直轄事業を例示しています。



## [参考]令和6年度北海道開発事業費（当初）による北海道への経済波及効果（試算）

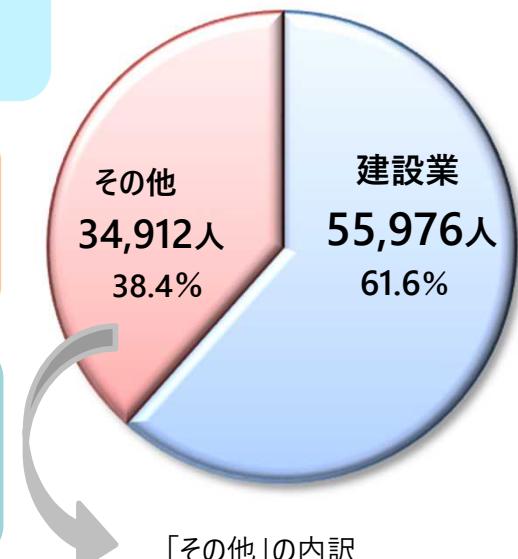
生産誘発額内訳



令和6年度北海道開発事業費（当初）により発生する直接需要額  
**6,677億円**

(7,016億円から用地費及び補償費338億円を除いた額)  
※なお、北海道開発局実施以外の事業を含む。

就業者誘発数内訳



## 生産誘発額

**1兆1,916億円**

(経済波及効果 1.8倍)

生産誘発額のうち  
粗付加価値額6,516億円は  
道内総生産（名目）の  
約3.2%に相当

令和3年度道内総生産（名目）20兆5,409億円

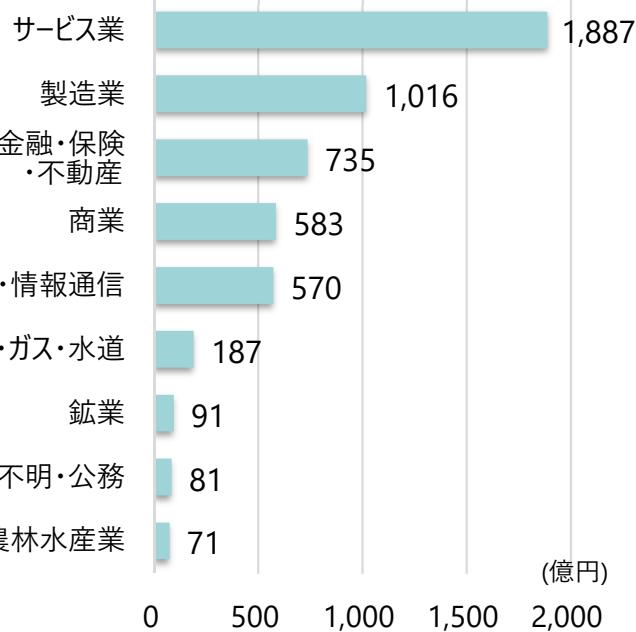
## 就業者誘発数

**90,888人**北海道の就業者数の  
約3.4%に相当

北海道の令和5年就業者数約264万人

「その他」の内訳

「その他」の内訳



## &lt;各圏域における全道への経済波及効果&gt;

(単位：億円、倍、人)

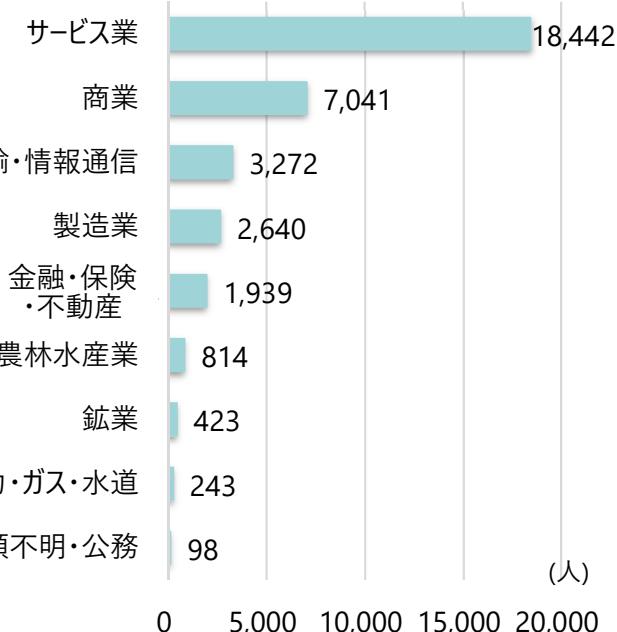
	予算額	生産 誘発額	経済波及 効果	就業者 誘発数
道央	1,580	2,737	1.73	約18,700
道南	287	525	1.83	約3,500
道北	647	1,200	1.86	約8,500
オホーツク	292	538	1.84	約3,000
十勝	258	480	1.86	約3,100
釧路・根室	347	626	1.81	約4,100
全道計	3,411	6,108	1.79	約40,900

※1 予算額は北海道開発局実施事業のみであり、用地費及び補償費を除いています。  
用地費及び補償費は過去3年の実績より算出。

農業及び水産基盤を除き、工事諸費は含まれていません。

※2 生産誘発額、就業者誘発数は、各圏域から道内他圏域を誘発する分を含む。

※3 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



出典：「平成27年北海道産業連関表」（北海道開発局：令和2年9月公表）、「平成27年北海道内地域間産業連関表」（北海道開発局：令和5年1月公表）

「令和3年度道民経済計算」（北海道：令和6年3月公表）、「労働力調査 令和5年平均」（総務省：令和6年1月公表）から試算